

2023前期 年度 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価

作成日

令和5年10月31日

法人名

園名

社会福祉法人照治福祉会

摂津峡認定こども園

まとめ

全体平均

4.39

第2章第2節 乳児期の園児の保育	子どもの気持ちに寄り添い子どもの安心安全を保障した環境と保育を行っている。また丁寧な保育を通して子どもとの応答の中で他者との関りも積極的にいきなりその中で受け止めてもらった満足感や自己肯定感が育まれていると実感している。
第2章第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育	「一人一人に寄り添う保育」をキャッチフレーズにして職員は子どもたちと丁寧に向き合っている。また育児担当保育のマニュアルを活用し、時にはクラス会議などで振り返りながら確認合っている。そういった面でこれらの各領域を一体的に保育が行なわれている。環境、言葉、表現については専門職としての知識や技術について職員の意識の中に足りないところがあると時間しているのだと伺える。それに努めていく必要がある。
第2章第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育	コーナー保育など担任が担当を持ち月案をもとに計画を立て見直しを持って保育を行っている。担任においては経験の浅さから期間内に計画した保育をやり遂げることが難しい面もあるが、計画を見送ることなく実践している。また毎日作成するドキュメンテーションの中に10の姿の項目をチェックする欄があるが、偏りなく各領域をバランスよく一体的に教育・保育を進めている。
第2章第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項	子ども一人一人の家庭の事情や発達に配慮して保育を行っている。また子どもが主体的に行動できるようにこどもの今に寄り添い言葉を掛けたり育児行為への誘いも個々に寄り添いながら行っている。子育て支援についても朝夕の送迎時には必ず声を掛け一日の様子を言葉で伝えたり園での様子から心配な事、配慮していることなど保護者との関係性を大切にしながら進めている。
第3章 健康及び安全	健康支援や食育の推進など看護師・保健師・管理栄養士などの専門職を交えて定期的に会議や打ち合わせを行い進めている。当園の評価できるところは各専門家がそれぞれに取り組むのではなく、会議や日常の対話から保育教諭と一緒に連携しながら取り組み子どもの育ちを一緒に見守っている。また災害への備えについてもBCP計画を各分野の専門職と一緒に見直しを含め、大災害時などを想定した計画に取り掛かっている。
第4章 子育ての支援	今年度の事業計画の中に子育て支援を重点的に取り組む予定にしている。ベビママの取り組みの充実を図ったり、パパとも広場などの新しい取り組みを行ったりしている。実際に子育てで家庭で困っていることを推察するに、身近に相談することが出来ないという人がいない、また子どもの発達段階に置いていやいや期やぐずった時、食事がうまく進まないなどそういった困りごとを解消できるように親子での参加型の保育体験を計画した。費用や対象児などの課題があるので今後検討していきたい。
第5章 職員の資質向上	キャリアアップ研修など対象となる職員が積極的に受講している。また副主幹を中心に必要とする園内研修についてアンケートなどを取り主体的に取り組むところは評価できる。これからもそういう風土を作っていきたい。
総合	職員一人一人の教育保育についての質や技量については十分とは考え難いところもあるが、お互いを認め合える関係性を構築しようとする風土があり職員一人一人に感謝する。それが日頃の教育・保育の実践にも現れ、一人一人に寄り添った教育・保育が展開されている。各クラス会議、食育・給食、衛生・安全、乳児・幼児等各担当会議などは積極的に行われ、子どもたちの育ちや環境に対する安心安全に配慮した教育・保育については職員間で共有されており、これからも意識的に行なっていきたいところである。データグラフにある数値について、職員の質向上については概ねできているという認識ではあるが、他の項目に比べて数値が低いところは、職員間の意識の中で不十分と捉えていると思うので努めていきたい。

データ表

内容	項目数	平均
「乳児保育」	15	4.71
「3歳未満児保育」	32	4.34
「3歳以上児保育」	53	4.32
「教育保育の配慮事項」	16	4.69
「健康・安全」	29	4.31
「子育ての支援」	18	4.44
「職員の資質向上」	9	4.00
計	172	4.39

データグラフ

